<p>2. 事業の目的と概要</p> <p>The project to provide children wheelchairs to needy children will support them to improve physical and mental condition and to go to school and working place reducing burden of family for care. Children will be given the opportunity to fulfill their potential on equal basis in their community.</p>	
<p>(1) 上位目標</p>	<p>事業対象地の障害児に車椅子を供与することで、座位を保ち、自分で自由に移動できるようになり、身体的および精神的に健康的な生活が出来て、地域社会との交流ができるようになる。また家族の介護の負担が軽減され生活の改善向上を図る。</p> <p>さらに障害児への車椅子支援の重要性を行政に訴えるとともに、障害に対する理解を深め差別のない社会をつくる。</p>
<p>(2) 事業の必要性(背景)</p>	<p>(ア) エチオピアの障害児の 85%は農村部に居住しているために遠方の都市部に集中している医療機関の適切な治療を受けることができない。障害児は出産時や幼児期に発症する脳性麻痺(全体の 26%)やポリオ(30%)、脊髄損傷(14%)事故等(30%)で身体不自由児になるケースが多い。</p> <p>エチオピアの障害者支援 NGO の実態調査では人口(9173 万人・2013 年世銀)の 0.54%(49.3 万人)が障害者でその内肢体不自由の障害者は 44%の 21,7 万人で、子どもが約 3 分の 2 を占めると推定される。</p> <p>障害児は自由に動くことが出来ず、家では床やベッドに置かれて、衛生環境も悪く、飲食も自由にできないなど悲惨な生活を送っている。介護をする家族の負担も重い。</p> <p>障害児が適切な身体的なりハビリ治療や教育を受けるためには車椅子は必要不可欠である。</p> <p>、</p> <p>しかし、障害児用の車椅子は高価で特注が必要であることから市販されておらず、現地でもほとんど作られていないため、障害児は車椅子を入手することが容易でない。</p> <p>一方、日本の車椅子は医療機器としての機能を備えていて、1 台 20-30 万円もする。中古品であっても、当会が整備して安全性と耐久性を確保した上で、当会から輸送したほうが、安いコストでかつ効率よく車椅子を必要とする障害児に提供することができる。</p> <p>(イ)「持続可能な開発目標」(SDGs)</p> <p>1.3 2030 年迄に貧困者及び脆弱者に対して十分な保護を達成する</p> <p>3.8 全ての人々に対する質の高い基礎的保健サービスを達成する。</p> <p>4.5 2030 年までに障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練を平等にアクセスできるようにする。に沿った事業である。</p> <p>(ウ) 外務省の対エチオピア連邦民主共和国国別援助方針の「援助</p>

の意義」で、同国の課題の一つとして「農村における教育・保健を含む社会サービスの未整備」をあげ、この問題に対する解決支援は我が国の支援方針に合致する旨謳っている。本事業は農村部の社会サービス向上の一助となり、我が国の援助方針に沿うものであると考えられる。

(エ)「TICADIVに対する我が国の取り組み」の「強靱な保健システム促進」のなかで、「全ての人が保健サービスを楽しむアフリカ」に該当する事業であると考えられる。

(オ)当会は1985年に英国人チェシャ氏の支援で設立された障害者支援団体チェシャ財団の活動拠点であるバハルダール地区へ2011年に90台、2013年にジマ地区へ90台、2015年にデシエ地区へ160台合計340台の障害児用車椅子をN連資金協力で障害児用車椅子を供与した。

その結果、それぞれの地域で車椅子を受け取った子ども達の背骨や筋肉の矯正を助長している効果があり、全体の90%（10%は重度の障害児）が容易に外出できて、家族の負担も軽減された。また、65%の障害児は教育や職業訓練や村の行事などへの参加が容易になり社会参加ができるようになり、現地関係者の評価は高い。

本年度はアジスアベバ市近郊の農村地域で車椅子を必要とする重度の障害児（250名）を支援するために、アジスアベバ市にあるチェシャ財団障害児支援センターに90台を供与する。また、2011年に90台を供与したが、未だ160名の車椅子を必要とする障害児がいるバハルダールの障害児支援センターへ90台を供与する事業を行う。（90台が20フィート積載最大台数）

<p>(3) 事業内容</p>	<p>1) 日本国内での事業</p> <p>(イ) 車椅子の収集調達 首都圏特別支援学校 17 の PTA から無償で提供を受け、 当会がトラックで収集する。</p> <p>(ロ) 車椅子の洗浄、補修等の整備、梱包を日本で行う。</p> <p>(ハ) 車椅子の輸送 専門業者に依頼しコンテナ積、海上輸送、現地陸上輸送を行う。 アジスアベとバハルダールへ別船便で輸送する。</p> <p>2) エチオピアでの事業</p> <p>(イ) 当会は引渡式をアジスアベバ市とバハルダール市のそれぞれの支援センターで車椅子が到着時に現地保健行政関係者、ソーシャルワーカー、障害児の保護者を招いて行う。</p> <p>(ロ) 当会は引渡式のあと、財団のソーシャルワーカーに車椅子の使い方について説明指導し、車椅子管理担当者には当会作成の車椅子サービス作業マニュアルに基づいて補修修理のノウハウを伝える。</p> <p>(ハ) 現地受益者と貸与契約を交わして引き渡す。</p> <p>供与先： チェシヤ財団障害児支援センター</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>アジスアベバ地区</td> <td style="text-align: right;">90 台</td> </tr> <tr> <td>バハルダール地区</td> <td style="text-align: right;">90 台</td> </tr> </table> <p>裨益人口</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本案件によって供与される車椅子の利用者 180 名 2. 1. の介助者（主にその家族、1 家族 5 名として）約 900 名 3. 訪問物理療法士やリハビリセンター職員：5 名 	アジスアベバ地区	90 台	バハルダール地区	90 台
アジスアベバ地区	90 台				
バハルダール地区	90 台				
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>1) 支援センターに所属する物理療法士の指導で障害児に適合した車椅子を供与し、将来子どもが成長して適合しなくなった時には、次の子どもに渡すことができるように保護者との貸与契約を結び、車椅子の活用実態を把握して的確に管理する。</p> <p>2) 車椅子を長期的に使用できるように、当会は支援センターの職員が保守作業を的確にできるようにサービスマニュアルを説明し指導している。</p> <p>破損や故障で不具合になった場合には、当会が支援センターへ補修修理のために必要な部品を無償で提供する。</p> <p>3) そのために当会は全ての車椅子に日章旗マークと管理番号のステッカーを貼付し、車椅子の写真付データを財団と共有し、車椅子の修理部品が必要な場合には、データをもとに手配をする。</p>				

<p>(5) 期待される成果と 成果を測る指標</p>	<p>障害児が車椅子を入手することで、自由に動くことができるようになり外気や紫外線に触れて肉体的・精神的な健康維持が可能になる。さらに車椅子を活用することによって座位が保たれ、骨や筋肉の発達を助け、容易に座って食べたり飲んだりできるようになり自立育成できる。</p> <p>学校や病院へ行くときに、家族や病院のスタッフが背負ったり、抱いたりすることなくなることで、家庭をはじめ周囲の人々の負担を減らすことができる。</p> <p>成果を測る指標</p> <ul style="list-style-type: none">①外出して新鮮な空気を吸い、紫外線に当たる頻度が増えたか②身体的精神的に改善があったか③家族の介護の負担がどれだけ軽減できたか④友達や地域の人々と交流する機会が増えたか <p>上記の項目について、車椅子を引渡して1年後に受入団体が障害児の家庭を訪問し面談して、個々の達成度合いを3段階レベル（A，B，C）で評価する。</p> <p>対象障害児の評価をA，B，Cに数の合計数によって総合評価をし 供与対象者の80%が総合評価Aと評価される。</p>
---------------------------------	---